

# 共存学2

## 災害後の人と文化 ゆらぐ世界

共に在ること  
共に生きる意味を  
問い直す



國學院大學研究開発推進センター【編】

國學院大學経済学部教授、共存学プロジェクトリーダー 古沢広祐【責任編集】

A5判上製カバー巻き 264頁 ●定価 2,625円 (5%税込)  
ISBN 978-4-335-16074-5

2月20日発売

東日本大震災後、日本は、世界はどう変わるのか、どう変わるべきか。まず、震災後被災コミュニティに何が起り、復興に役立ったのは何だったのかを共存の視点から検証します。さらに視野を世界に広げて、「共存学」を深化させていく第2弾。

### 共存学プロジェクト 3つの領域と視点

#### 1 ローカルな視点

地域コミュニティの  
持続可能性。  
農山漁村の共同性と暮らし。

#### 2 リージョナルな視点

伝統文化と歴史を見つめる。  
「共存」の智慧、可能性、  
限界を見極める。

#### 3 グローバルな視点

多文化の共生・共存とは。  
地球規模での環境変動。  
安定を模索する世界のゆくえ。

いまなぜ共存なのか？

—災害後の人と文化、ゆらぐ世界—

◎古沢広祐

#### 第一部 震災復興と文化・自然・コミュニティ

【講演】震災復興に伝統文化の力をどう活かすか？

—郷土芸能と人びとの暮らし—

◎小島美子

【講演】逆境に立ち向かう

—震災からの復興に自然と歴史と文化を—

◎佐々木健

被災地における無形伝承の復興と情報ネットワーク

◎久保田裕道

#### 第二部 復興支援と共存の関係性

宗教を越えた災害支援のネットワーク

◎黒崎浩行

復興支援における共存と祭礼行事のかかわり

—「山田のご縁プロジェクト」の取組みから—

◎板井正斉

自然災害との共存

—自然災害伝承と神社由緒との関係性にみる—

◎藤本頼生

#### 第三部 地域の災害と開発のゆくえ

自然災害と地域振興—三宅島観光の現況と課題—

◎筒井 裕

静岡県・日伊東町における源泉開発の展開と旅館立地の変化

—温泉地の形成過程にみる共存の模様—

◎赤澤加奈子

日本の近代化と公害・原発災害

—田中正造の歩みと公害の歴史から考える東電福島原発震災—

◎菅井益郎

#### 第四部 ゆらぐ共存の諸相と世界

日鮮同祖論と神社

—エスニシティ、ネイション形成と共存を考えるために—

◎菅 浩二

共存のインターフェイス—共有宗教文化—

◎濱田 陽

「共存」について—政治哲学的考察—

◎菊田真司

現代世界・文明の在り方をどう展望するか？

—ポスト地球サミット、シナリオ・パラダイム分析の視点から—

◎古沢広祐

# 共存学1

## 文化・社会の 多様性

好評既刊

國學院大學研究開発推進センター【編】  
古沢広祐【責任編集】

地球環境の危機から政治・経済的パワーバランスの流動化、人々の精神性の揺らぎに至るまで、混迷を深める現代。未来にむかって多義的存在様式を含み込みつつ、持続的発展を可能とする社会を考察する「共存学」の立ち上げを告げる論集。地球の気候変動や生物多様性の崩壊という危機的状況に対して、より広い視野から文化・社会の多様性という将来的課題を提起します。

A5判上製カバー巻き 288頁 ●定価 2,625円 (5%税込)  
ISBN 978-4-335-16068-4



特別価格申込書は裏面

弘文堂

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7  
TEL 03-3294-4801 FAX 03-3294-7034  
<http://www.koubundou.co.jp/>